

1, 今日は、BC 870年ころ、北イスラエルの王アハブ、その妻イゼベルの時代の預言者エリヤの話です。エリヤは、主が嵐をおこして天に上げられたと言われており、新約聖書の多くの大事な場面に登場します。19Cの作曲家メンデルスゾーンに“エリヤ”というオラトリオがあります。エリヤの生涯を歌った素晴らしい曲です。特に天に上げられる場面の合唱曲が素晴らしい。さらにユダヤ人が割礼を施すときに使う椅子をエリヤの椅子というそうです。エリヤがこれほど取り上げられる意味を考えてみたいと思います。

イエスさまが、私たちの罪を贖うため十字架にかかり、その十字架上で「エリ エリ レマサバクタニ。これはわが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」（マタ 27 : 47）と衝撃的な言葉を発したとき、これを聞いた、そこに居合わせた人々が、エリヤを呼んでいると言います。なぜエリヤなのでしょう？マラキ 3 : 23に「見よ、わたしは、大いなる恐るべき主の日が来る前に預言者エリヤをあなたたちに遣わす」とあります。救い主が来る前に、エリヤがあらわれると、この預言からユダヤ人は信じていたのです。それでイエスさまが救い主であるかどうか判断するため、エリヤが来るかどうか見ようと言っているのです。また、

主の天使がザカリアにあらわれバプテスマのヨハネの誕生を告げ知らせたとき、天使はその子は「エリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心の子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別をもたせて、準備のできた民を主の前に用意する」（ルカ 1：17）とザカリアに伝えたとあります。主は、バプテスマのヨハネが、マラキ書の言う預言者エリヤだと言っているのです。イエスさまも、ヨハネを「彼は現れるはずのエリヤである」（マタイ 11：14）と言っています。民はそれを信ぜず、別のエリヤの出現を待っているのです。12弟子のアンデレ、ヨハネ、ヤコブはヨハネの弟子だったと言われています。イエスさまについていくことになったのも、天使の預言通り、イエスさまのために準備された人々であることをも表しているのかもしれませんが。

- 2, さらに、イエスさまが、ペトロ、ヨハネ、ヤコブを連れて祈るため高い山に登った時のこと、イエスさまが祈っているときに、イエスさまの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、眼は光のように白くなった、見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスさまと語り合っていたとあります（マタイ 17：1～3）。イエスさまが、いよいよ十字架につく覚悟をするときに励ましていたのです。これはまた、旧約から新約への救い主の世代交代を表していると言ってもいいでしょう。

3, さて、本日の聖書の箇所を見ますと、1節で「主が嵐を起こしてエリヤを天に挙げられた時のことである」とあります。エリヤは死なずに天に上げられているのです。そのため、また地に現れると信じられていたのかもしれませんが、エリヤは、弟子であり後継者のエリシャをつれてギルガルを出る時のことです。2節でエリヤはエリシャに「主はわたしをベテルまで、お遣わしになるが、あなたはここにとどまっていなさい」と言います。しかしエリシャは「主は生きておられ、あなたご自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」と言い、ついていくのです。さらにエリヤは、「主はわたしをエリコへお遣わしになるが、あなたはここにとどまっていなさい」とエリシャに言います。しかしエリシャは同じように「主は生きておられ、あなたご自身も生きておられます。わたしはあなたを離れません」と答え2人はエリコに行くのです。さらにエリヤは3度目に主はわたしをヨルダンへお遣わしになると言い、同じ問答をエリシャと繰り返します。

4, この問答を読んでいるとヨハネ21：15以下にある復活したイエスさまとペトロの問答を思い浮かべます。イエスさまがペトロに「この人たち以上にわたしを愛しているか」と問い、ペトロが「はい、主よ、わたしがあなたを愛していることはあなたがご存じです」と答えています。この問

答も3回繰り返されます。そこでイエスさまは、ペトロに「わたしの羊を飼いなさい」と3度繰り返し言われるのです。イエスさまは自分が十字架にかかって死なれた後の伝道の役目をペトロに託しているのです。まさにエリヤがエリシャに託そうとしていることと同じです。列下2：8節、ヨルダン川で、エリヤが外套を脱いで丸め、それで水を打つと、水が左右に分かれたので彼ら2人は乾いた土の上を渡って行ったとあります。モーセを思い浮かべますね。渡ったところで、エリヤはエリシャに、9節「わたしがあなたのもとから取り去られる前に、あなたのために何をしようか。何なりと願いなさい」と言います。エリシャは「あなたの霊の二つ分をわたしに受け継がせてください」と言います。10節、エリヤは「あなたは難しい願いをする。わたしが、あなたのもとから取り去られるのを、あなたが見れば、願いはかなえられる」と答えます。11節、「彼らが話しながら歩き続けていると、見よ、火の戦車が火の馬に引かれて現れ、二人の間を分けた。エリヤは嵐の中を天に上って行った」のです。火の戦車とか火の馬はエリヤの戦いの生涯をあらわしています。エリシャは、それを見て「わが父よ、わが父よ、イスラエルの戦車よ、その騎兵よ」と叫んだとあります。13～14節、そうしているうちにエリヤの着ていた外套が落ちてきたので、エリシャはそれを拾い、ヨルダン川でその外套で水を打

ち「エリヤの神、主はどこにおられますか」と言うと、水は左右に分かれたとあります。エリヤの霊と力がエリシャに引き継がれ世代交代したのです。

この情景は、使徒1：8～9、「復活したイエスさまが弟子たちの見ている前で天に上げられたが、雲に覆われて彼らの目から見えなくなった」と似ています。このときもイエスさまは、弟子たちに「あなた方の上に聖霊が降るとあなた方は力を受ける。そして、エルサレムとサマリアの全土で、また、地の果てにいたるまで、私の証人となる」と、自分が天に昇った後の伝道の働きを弟子たちにも託しているのです。教会の働きも同じことが言えます。多くの皆さんが、教会創立以来57年間、つちかってきたものをどのようなかたちで次の世代につないでいくかが、私たちにも問われているのです。エリヤは後継者をはっきり示して天に上っていったのです。イエスさまも、自分の教えを伝えることをはっきり弟子たちに示して天に昇っていったのです。わたしたちも、その責任を心にかけて祈っていきたいものです。